

竹内和順議員



● 国道157号大渡大野間の4車線化について  
● 小中学校の先生の処遇について

そのほかの質問  
・行政営業という手法について  
・福井国体開催に向けてのおもてなしについて  
・里地里山の原風景について

一般質問

**問** 平成34年度は、北陸新幹線敦賀開業と同時に、中部縦貫自動車道大野油坂道路全線開通が待ち望まれる。そこで、国道157号大渡大野間は未だ4車線化になっていない。今現在、恐竜博物館をはじめとする勝山市への観光客の入込数は、予想をはるかに超えたものとなっていて、交通体系整備方針の軌道修正が必要と考える。今後、勝山市の方針と県へのアプローチをどのようにかけていくのか伺う。

**答** かねてより県への重要要望として大渡高架橋を含めた4車線化を要望している。県は、中部縦貫自動車道永平寺大野道路全線供用開始後の状況を把握として交通量調査を実施しており、事業着手する基準である24時間交通量1万台を超えているとのこと。国道157号は、平泉寺や県立恐竜博物館などへの大野市側からの入口であり、中部縦貫自動車道大野油坂道路が開通すれば関東圏・中京圏からの車が更に多く通行することが想定される。今後も国道157号を整備促進期成同盟会の場で訴えていくとともに、県に対し引き続き強く要望していく。

**問** 福井県は、小学校、中学校、高校ともに、採用は県で一括実施し、小学校と中学校の先生方は、各自自治体の教育委員会の下で勤務されている。勝山市の小学校と中学校の先生方の正職員と臨時職員の処遇の違いはあるのか。また、複式学級等に市独自採用の臨時職員がおられるが、県の臨時職員と市の臨時職員との処遇の違いはあるのか、同じ処遇にしている市町もあると聞く。

**答** 県採用の非常勤の教員については、さまざまな種類があり、学校の状況に合わせて派遣される。非常勤教員については、勤務時間や業務内容により報酬が異なり、正規教員の処遇とも違いはある。また、市独自でも、非常勤職員を雇用している。複式学級には少人数指導支援員、複式以外の学校には特別教育支援員など、必要とする学校に配置している。

非常勤職員の勤務時間は、1日4時間から6時間だが、県の非常勤教員より低い時間単価でお願いしている。県内、多くの市町でも同様な状況にあり、今後の検討課題としたい。

久保幸治議員



● 勝山市の文化振興について  
● 人口減少・少子化の問題について

そのほかの質問  
・市民の暮らし、命、財産を守る基本的な考え方について  
・業務委託における入札制度について

一般質問

**問** 市民総合文化祭の充実はかかるうえで、その予算が28万円というのはいささか、スポーツと文化の支援のバランスが取れていない。作品を展示する大きなパネルが必要かどうかの声もある。

**答** 演劇、イベントに使用する器具や道具の持ち出し・貸し出しが備品保全の理由で許可されないのは、サークルや団体芸術活動の支援として積極的とは言えない。

**問** 実行委員会の意見を十分聞き、充実した内容となるよう努める。また、サイズの大きい展示用パネル購入などの予算措置の必要性については、利用者のニーズを参考にしながら検討する。

市民会館の規則において器具や工作物等を使用する場合は館外へ移動しないことと定めている。備品を適正に管理する上で館外への持出使用は困難と考える。

館内での各種行事等で音響や照明設備、舞台道具等を使用する場合、職員等がハーサルや本番に立ち会うなど効果的に運営できるように対応していく。

**問** 人口減少・少子化問題に対応する、市のU・Iターンによる定住政策以上に子育て支援などの充実こそが、定住・自然人口増につながり、子育て支援の底上げは、市の将来に必要。

**答** そこで、年収約360万円未満相当世帯の保育料を無料に出来ないか。また、そのためにはどのくらいの予算が必要か。説明を求めます。

**問** 勝山市では、以前から保育料の各種軽減を行っているが、年収約360万円未満相当世帯の保育料を無償化した場合、平成29年4月1日時点で158名の乳幼児が対象となり、年間約912万円の経費が必要となる。

現在、国において、3歳児から5歳児までの幼児教育の無償化を検討しており、0歳児から2歳児までについても、所得の低い世帯に対して無償化の方向性を示している。

今後は、国における幼児教育の無償化の動向を注視するとともに、更なる子育て環境の整備並びに保護者への経済的負担軽減策を推進していきたい。